

地域における公益的な取り組み 「右脳を喜ばせ、心が笑う臨床美術」

社会福祉法人 円勝会（兵庫県）

住 所 〒 679-4132
兵庫県たつの市誉田町福田 780-3

T E L 0791-63-3053

U R L

経営理念 多様化する地域ニーズに応えるとともに利用者一人ひとりがこころ豊かに、安全で安心ある暮らしができるよう支援します。内部管理体制の基本方針に沿って、法人のガバナンスを確保するとともに、適正な業務運営に努めます。

事業内容及び定員 特別養護老人ホーム（100名）1か所
特別養護老人ホーム（多床室50名・ユニット30名）1か所
特別養護老人ホーム（ユニット120名）1か所
サービス付き高齢者向け住宅（40戸）1か所
小規模多機能型居宅介護（43名）2か所
養護老人ホーム（50名）1か所
障害者支援施設 入所支援（80名）1か所
障害福祉サービス事業所（通所20名）1か所
多機能型障害福祉施設 生活介護（76名）2か所
就労継続支援B型（95名）4か所
障害者グループホーム（146名）27か所

収 入 (法人全体) 平成29年度決算	①社会福祉事業	3,553,152,782円
	②公益事業	60,847,928円
	③収益事業	-円

職員数 662名（非常勤含む）
(法人全体)

当面する経営課題

- ・人材不足
- ・人件費の上昇
- ・施設の改修
- ・デイサービス部門の利用率の低下

地域における公益的な取り組み

「右脳を喜ばせ、心が笑う臨床美術」

地域の誰もが笑顔になり、住み慣れた我が街で明るく楽しい生活を！！

社会福祉法人 円勝会
理事長 西川 光明
法人本部
臨床美術士 中谷 真理

◆ 取り組みの目的や背景 ◆

絵を描くことに上手も下手も関係なく、誰もが楽しみながら作品を作ることができる臨床美術(クリニカルアート)の芸術療法を取り入れて、地域の高齢者や障がい者の笑顔を広める活動です。地域でのふれあいサロンや認知症予防教室では体験できない、「右脳を喜ばせ、心が笑う」をテーマに取り組みました。こころを開放して生きる意欲がわいてくるように、地域の高齢者、障がい者や支援する人達の笑顔を広める活動です。

◆ 活動内容 ◆

《 対象者 》

外出をためらっている高齢者や障がい者、あるいはふれあいサロンやデイサービス等でなじめない人たち

《 内 容 》

ふれあいサロンや認知症予防教室などでは体験できない、「右脳を喜ばせ、心が笑う」をテーマに、芸術療法の一つである臨床美術を取り入れました。

今回は、地元の地域包括支援センターと連携して、民生児童委員のグループと共同して認知症高齢者の方を対象に、地元自治会館で臨床美術のセッションを行っています。

《 参加者 》

認知症高齢者 10名、民生児童委員 6名、
法人職員 2名、地域包括支援センター職員 2名、



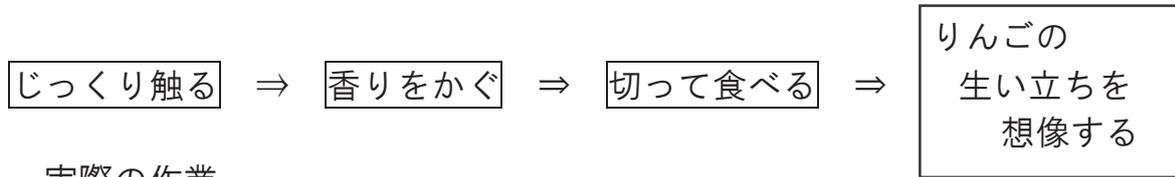
作品を皆さんで鑑賞します



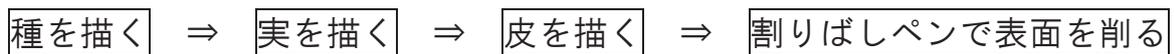
あじさい画 (季節の花シリーズ)

《 当日の題材 》 『 りんごの量感画 』

プログラムのひとつである「りんごの量感画」では、りんごを描く前に、まず



実際の作業



(色で塗り重ねていきます)



⇒



形や色などの「視覚」だけで描き始めるのではなく、「五感」を総動員して描いていきます。

一人一人の個性が自由に表現されるように、作品の制作中は介助者（介護者）が助言をせずに見守ります。

りんごの量感画のセッション風景



◆ 活動の成果 ◆

自分は絵がヘタと思っている人が、夢中で手を動かしたくなるような自由で楽しい内容となりました。本人の自主性にまかせ、何色を使っても、どの様に描いても、それはその人の個性として認めることにより、その人のその時の感情や気持ちを素直に表現することができました。

一人一人の作品にはその人の個性が表現されており、また参加者全員がとてにこやかで、おだやかな表情が見られました。自分の作品を見ると楽しい気分を思い出すと言う人もいました。また、ご家族から「母のこんな笑顔を見るのは久しぶりです」「こんな素敵な絵が描けるとは思ってもいなかった」など家庭での会話が盛り上がったとの報告もありました。職員からも情緒が不安定な方や気難しい方が落ち着きが出てきたとか、自分から話をするようになってきたとの声があがっています。

普段見られない様な笑顔や、集中して作業をする事などいろいろな面が観察され個別支援の一助となっています。

◆ アピールポイント ◆

日々の生活の中に笑顔を取り戻し、生きる意欲がわいてくる取り組みとして、現在行っている地域貢献事業と関連づけながら活動しています。

当法人が従来行っている地域貢献事業に芸術療法を加える事により、参加者同士のコミュニケーションが活発になり、地域の方々の参加者が多くなりました。地域とのつながりを生かす事で、地域ボランティア協会や民生児童委員との連携がスムーズにでき、活動の輪が益々広がっています。

また、市の地域包括センターとの連携により、社会福祉法人の機動力や発信力を生かして高齢者、障がい者、児童生徒など幅広い分野の人が体験する機会が増えました。

介護専門職がサポートすることにより、個々の状況に応じた支援が行え、必要なサービスへの橋渡しとなり、家族とコミュニケーションできる場がつかれるようになりました。

協力関係にある他法人や NPO からも実施依頼があり、今後益々この事業活動に広がりが期待できます。